

学力向上に向けた取組

【羽生市教育委員会】

- 1 学校、学年、教科 小学校、全学年、全教科
- 2 ねらい
 - ・基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得する。
 - ・「言語・文字による意思疎通能力」
(内容を理解する。考えを伝えることができる)を身につける。
- 3 取組内容 教科会の研修を通し、分かる・楽しい授業の展開と個に応じた指導の充実を図る。また、家庭学習の習慣化を図る。

研究主題「確かな学力を身につけさせる指導方法の工夫
～基礎基本の定着と言語活動の充実を通して」の推進



具体的方策として

- ・少人数指導によるきめ細やかな授業の実践。(1・3年生英語)
- ・ティームティーチングによる複数の目による幅広い授業の実践。(2年生理科)
- ・はつらつアシスタント(介助員)を活用した授業を通して、特別な支援を要する生徒への対応の充実。
- ・活字に親しみ、読解力の向上を目指した朝読書の充実。(月、水、金)
- ・教科会を定期的にもち、指導方法の研修を進める。

「学習指導面・生活指導面」

- ・学校課題解決プランモデル集の活用。
- ・「学びの子5つの合い言葉」の推進
- ・基礎的・基本的な学習内容の定着化、思考力や表現力を伸ばす教育活動の推進。
- ・基礎学力の定着・向上を目指した繰り返し学習の充実(数学・計算 火、木)
- ・ノーチャイムによる自主的行動と授業開始時間の厳守、学習規律の確立。

「家庭・地域との連携」

- ・学校公開週間の年2回実施。
- ・家庭学習の習慣化を図るための取組プリントの活用。
- ・学校・学年・学級だより等により、家庭学習の充実と定着を図る。
- ・PTA保護者会、学級懇談、家庭訪問、進路説明会等における家庭学習の重要性の呼びかけと家庭でのチェック体制の確立
- ・地域人材、地域の教育資源、学習環境の積極的な活用

4 成果と今後の課題

(1) 成果

生徒の実態から、言語活動の充実、家庭学習の習慣化が図られてきている。

- ・授業で自分の考えを発表する機会 H22 75.7% → H23 81.7%
- ・みんなの前で意見をはっきり言える。 H22 50.3% → H23 54.6%
- ・家庭での学習 H22 68.1% → H23 75.6%

また、教師の感想等から

- ・授業時の発言において、分かりやすく伝えようとする工夫や態度が見られた。
- ・授業における聴く態度が向上し、これに伴って授業内容の理解度が向上している。
- ・内容を分かりやすく伝えるために、論理的な表現を用いることができるようになってきた。

(2) 今後の課題

学校全体で取り組んだ「教科会の研修を通し、分かる・楽しい授業の展開と個に応じた指導の充実を図る。また、家庭学習の習慣化を図る。」による成果は十分に表れたと考える。しかしながらまだまだ改善の余地はあり、今後も教師の指導力向上に向けた研修を計画的に取り組む必要がある。また、教師・保護者による見とどけ、賞賛により、更に学習習慣の定着を図っていく。